

楡の会発達研究センター報告、その33（2014年2月）

+++++

2歳時に著しい人見知り場所見知りと言葉の遅れのため来院、  
親子心理療法によって4歳には二つの心配が無くなりました

楡の会こどもクリニック

石川 丹

+++++

はじめに：

他人の注目を浴びるかもしれない社会的状況において強い恐怖症状を示す場合を精神医学では社会不安障害と言います。

子どもの場合は、大声で泣いたり、固まったり、親にへばり付いたり、逃げ出したりして、不安心理を表現します。不安は相手が大人とは限らず同年代の子どもとの間でも生じます。ですから、親子の社会的生活に制約が生じ、親子共々困ってしまいます。

社会不安障害の子供は良く知っている人とは年齢相当のコミュニケーションができるので、広汎性発達障害の子とは区別される心理状態なのです。

本稿では母親に心理療法的子育て法をお教えすることによって社会不安障害を治せたケースを紹介します。

初診時2歳3ヵ月男児が言葉の遅れと強い人見知り場所見知りを心配されて受診して来ました。

診察室に連れられて来た児は母にしがみついて泣いていました。

1歳過ぎから知らない場所、病院、児童館、図書館、人の家、公園、子どもが沢山いる所に行くと母にすがって顔を埋めてずっと泣いていて、2~3回行くとようやく慣れて来るとの事でした。

4歳の兄とは一緒に行動できます。ままとでは切るふり食べるふりをします。寝付きは良く、タオルっ子でもありません。

ごによごによ盛んにしゃべり何を言ってるのか分からない事もありますが、母はイントネーションで「いただきます」とか理解できる言葉もあります。

口を閉じたまましゃべるのが多く、何でも「んんー」になってしまい牛乳も「んんー」と言いますが、その時の状況によって牛乳を欲しがってるのが分かります。この人誰？と聞くと「んん」と言うので、「ジージ」だよと言うと「ジージ」と言い直せます。正しい発音の日本語への学習意欲はあります。

真似て言えるのは「バッパー（祖母）」「ジージー（祖父）」「チッチー（おし

っこ)」「ブブー (車)」。歌うと歌詞は聞き取れないがメロディーは合っています。

家族は父母と 4 歳の兄。

母への説明と心理療法的子育て法の教示：

本児は新しい場面に慣れるのにすごく時間が掛かるタイプの子です。

新しい事に遭遇した時、誰でも多少は「どうしようどうしよう」と心がオロオロするものですが、この子はこのオロオロ感を人一倍感じ易い繊細さを持っているので、混乱していわゆるパニック状態になってしまうのです。

ですから、慣れるまでの間は不安が強くて安心が足りない状態ですので、先ず必要な事はこの子の心の中に安心が確信されるように仕向ける事です。つまり“安心作り”が一番大切なのです。

安心作りには事前の慣らし運転、ウォーミングアップ、予行演習、前倒しが非常に大事です。

この子の心の中に“えっ？初めてだ！”感を少なくして“予定通りだ予想通りだ”感、つまり想定内を作ります。そうする事がこの子の不安発生の予防に成るのです。

誰でも「思った通りだ」と思えば心には満足感、達成感、“ホッとした”感、“良かった”感が生じます。

嫌がるのを無理矢理我慢させるのはオロオロ感を作ってしまうので逆効果です。

例えば、初めて行く場合はその場所を予め携帯で撮っておいて事前に見せ、実際に行った時に「前に見た所だ」と思い易くして“初めてじゃない意識”を作るように仕組むことが大切です。

母にへばり付いて来たら、しっかり抱っこして「お母さんが抱っこしているから大丈夫、沢山抱っこしたら安心になって回りを見られるようになるよ。お母さんが 10 数えたら安心になるもんね」と暗示を掛けるように言って、どうなったら安心が広がるのかをこの子に積極的にアピールしてから数を数えます。数え終わったら「ほおら、安心ができたよ」と声掛けして、児の心に“安心が沢山出来た”感を作ります。

言葉については、この子は日本語の発音が苦手な子だから真似し易い手本を呈示するのが大事です。そのためにはこの子の言いたそうな事を母がどんどん代弁して言う事です。そうするとこの子は真似し易い手本が提示された事に成りますから、それを真似して学びが進みます。それが正しい日本語の発音練習になります。その結果、ゴニョゴニョ言う言葉が段々日本語になって行きます。

母がこの子のゴニョゴニョ言う内容をイントネーションや雰囲気理解でき

たらこの子が言おうとしている事を正しい日本語に変えて母が口に出して代弁して言う事です。つまりどンドン言い当てて凶星を言ってあげてください。凶星を言うと児の心に“分かってもらえてる感”が湧き上がって来るので安心感が更に増え、人見知り場所見知りにも良い効果が出ます。

経過：

1ヵ月後の2歳4ヵ月。

入室して筆者が呼名すると「はい」と答えました。ゴニョゴニョが増えたそうです。バイバイを「バッパイ」と言うようになりました。

状況によって「りんご」とか「御馳走様」とか言ってるのだろうと想像できる事が多くなったとの事で、母を褒めました。

本を持って来て「ンンン」と言うので読んでやると読んでる風に声を出し、ままごとでは順序通りに料理して「食べて」と仕草で表現するようになり、また「ハーッ」とか掛け声を発しながら兄と戦いごっこをするようになった事から、ごっこ遊びは年齢相当に発達した事が明らかになりました。

本児の非言語性知能は充分発達して来たので、言葉の発達のスピードアップが期待できました。

2歳5ヵ月。

知らない場所に行くと、母が抱っこしても顔を埋めてしまい未だに回りを見る事ができないとの事。母には児にはまだ安心の確信が足りない状況である事を説明し、引き続き積極的に安心作りを図るように勧めました。

2歳7ヵ月：

すごく喋るようになり、「パン、納豆、手、足、葉っぱ、これは？ これについて（兄）の？」などを発するようになりました。

テレビの～レンジャー番組を見て、兄と戦いごっこをし、戦いごっこで力が入り過ぎた時に母は「優しくね」と声掛けしているとの事で、母を褒めました。

2歳8ヵ月：

言葉は「この本読んで」「公園でもっと遊びたい」「お母さんもこっち来て」「あっち行こう」などさらに増えました。

仮面ライダーに変身して遊ぶようになりごっこ遊びの発達も進みました。

母にべったりはあるが、2mは離れられるようになり、新しいお友達とも遊べるようにも成りました。

2歳11ヵ月：

「～みたい」と比喩を言えるようになり、母は言葉は普通になったと述べました。

母が怒った時に目を合わせずに歌い出したり笑ったりして現実逃避していると母が言うので、これは惚けたり母をおちよくっている事に相当すると説明し、母からすれば困ったことだが3歳相当の健康な知恵の表現なので、母もおちよくり返したりボケたりして冗談の発達を促すように、と説きました。

3歳1ヵ月：

知らない人が居ると母にかじりつくが観察して見るようになりました。安心が広がって来た証拠ですと母を励ましました。

兄が先に行っちゃうと「待ってえ」と言いながら大泣きして追っ掛けます。

怪獣のフィガーを両手に持って「お前、何してるんだあ」とか言いながらごっこ遊びを演出しているとの事、順調な発達のごっこ遊びの姿であることを母に説明しました。

3歳3ヵ月：

「さっきテレビに出ていたよ」「探したらあるからね」「～ほい」などベラベラ喋るので言葉はもう心配ないとの事でした。

プレ幼稚園では他の児とよく遊ぶが、熱中すると先生の言う事を聞かない事があり、お友達を叩いたり突き飛ばす事もある、と。

人見知り場所見知りはかなり少なくなっ、全く知らない人から話し掛けられた時に少し固まるぐらいに良くなりました。

3歳6ヵ月：

知らない人に挨拶できるようになりました。知らない所で泣かなくなったが警戒はまだしています。母の注意を聴くようになりました。お友達を叩くのはずいぶん減りました。

診察室で型嵌め玩具で遊んでいて嵌らない時「これバツだよ」と比喩的に言ったのが観察されました。

3歳9ヵ月：

自己主張が激しくなりました。上手く行かないとよく怒って泣くようになりました。

寝言で「赤い滑り台滑りたかった」「紫の車もっと見たかったから早く行こう」など言うとの事。この寝言は日中上手く行かなかった事を夢に見て悔しがっ

ている事なので発達の経過としては良い事です、と母に説明しました。

「この歌聴くとタカシが怖がったね」と友達の事を思い出しながら言ったとの事で、お話の仕方の発達も順調と思われました。

4歳0ヵ月：

恥ずかしがるが人見知り場所見知りはまったく無くなりました。

「例えば～」の比喻表現をするようになり、言葉の心配は無く成りました。

兄に成ったり、ポケモンのキャラクターに成ったり、成り切り遊びも順調に発達しています。

4歳1ヵ月：

新版K式発達テストでは発達指数104でしたので、日頃の行動の判断だけでなく心理検査によっても健康な知恵を持っている事が判明しました。

静かにしていて欲しい所で態と変な顔やおもしろい顔をしておどけたり、温泉に入るのを嫌がっている子に「どうして嫌なの、バシャバシャされて嫌なの？」と相手の気持ちに成って話し掛けるなど、コミュニケーション技能も順調な発達を示していました。

母に「もう大丈夫だから、通院はしなくて良いです」と言うと母も納得しました。

考察：

当初は言葉の発達の遅れが明らかでしたがごっこ遊びの発達は健常でしたので、言葉はやがて追いつくだろうと診断した通りに言葉は正常化しました。

兄の心に安心をたくさん作れば人見知り場所見知りはなくなる、と考えた通りに4歳になって人見知り場所見知りはなくなりました。

さて、母親との親密な関係の中で成長した乳児期の子どもは、1歳になって独り歩きが可能になると、母を安全基地としながら探索行動や社会的行動を進展させます。これを愛着行動と言います。

母を安全基地として十分な安心安全を確保した上で幼児期発達が獲得されて行くのです。しかし、子どもによっては安心安全が十二分に確保されている事を確信しにくい子がいます。

安心を確信するために人一倍安心が必要な子は、親は安心を十分に授けている積りでも不安が高じ易くなります。子どもが過度な愛着要求を示す場合は分離不安を示す事に成り、新奇場面での安心確保に更なる確信を要する事に成ります。これが幼児の場合は人見知り場所見知りと言う形で出て来ます。新しい人や場所に慣れにくいと親が感じる子どもの心理は不安をその根拠としている

のです。

自分の気持ちをうまく言えない子に親がズバリ言い当てて言う事を繰り返していると、児の心に“お母さんお父さんは僕（私）の気持ちが分かっている、だから安心だ”と言う気持ちが増えて来ます。ですから、不安が強くて人見知り場所見知りの強い子の心に安心が拡がり、人見知り場所見知りが無く成って行くのです。

例えば、子どもが喜んでいたら「嬉しいんだ」、怒ってたら「怒ってるんだ」、しくしく泣き出したら「悲しい、悲しい」など子どもの感情を親がそのまま言葉に出して言います。また、片づけないで居たら「片づけたくないんだ」、黙って～を取っちゃったら「～欲しいんだ」、「行くよ」と声掛けても附いて来ない時は「行きたくないんだ」など子どもの気持ち・意図を親が言葉に出して言います。更には、子どもがミニカーを走らせていたら「走ったね」、積み木を積んだら「積めたね」、歯磨き中には「歯磨き出来てるね」など子どもの行動を親が言葉にして言います。

このように自分の気持ちや意図や行動を親に言い当てられて言われると、子どもには“分かってもらえてる感”が高じて安心が確信され易くなります。「お母さんは分かってくれている。お母さんは味方だ」という安心感が育ちます。

また、凶星を言われると、言いたい事を親が言ってしまってくれているので児にとっては真似し易い言葉の手本が示された形に成り、ついつい手本を真似して言ってしまって“簡単に言えちゃった”という気持ちを作れます。“出来ちゃったからまたやろう”という意欲も育ちます。ですから、言葉が上手にしゃべれるように成るのです。

付記：

個人情報については記事の主旨が損なわれない範囲で変改されています。